

俳人協会 青森県支部

会 報

発行所 俳人協会青森県支部

発行者 吉田千嘉子

〒039-1166

八戸市根城5-2-20

☎0178-24-3457

『俳句で創作すること』

中西夕紀先生 講演要旨

俳句を作る時、自分の身の周りを詠う。吟行に行つて見たものをしっかりと詠う。季節を詠う。と教わったと思う。その先に自分を詠う、自分の人生を詠うことを目指すがこれが中々難しい。

人生を詠う俳句を作った人として、先ず芭蕉を上げる。(この道や行く人なしに秋の暮) (この秋はなんで年寄る雲に鳥) この句は芭蕉最晩年の絶唱である。その芭蕉を継ぐ人に石田波郷がいる。波郷は出征の際、本冊の携行を許されると迷わず『芭蕉七部集』を持って行った。(手火花を命継ぐこと燃やすなり)



講演する中西先生

講師に中西夕紀俳人協会評議員

令和7年度 吉田千嘉子氏が新支部長に

俳人協会青森県支部の令和七年度総会・俳句大会が五月二十四日、中西夕紀俳人協会評議員を講師に招き、青森市の東奥日報社新町ビルを会場に開催された。

鍛錬句会は10月7、8日(中泊町・宮越家)

波郷は結核を治療しながら自分の境涯を文学的に詠った。

大石悦子は舞鶴出身、石田波郷に学ぶ。波郷に会う為の上京が波郷の葬儀参列の旅となる。四十台で角川俳句賞受賞。(てふてふや遊びをせむとて吾が生れぬ) 第一句集『群萌』。この頃胃を切除する大病を患う。(ヘイと渚の雪に千鳥かな) 第三句集『百花』。古典的な言葉を使い、想像を膨らませて作っている。後に蛇笏受賞。

行方克巳は千葉の生まれ。清崎敏郎に師事し、後、富安風生、楠本憲吉の影響を受ける。(肥後守蛇の句ひのこびりつき) (赤棟蛇奇みし夜の夢精かな)。句集『肥後守』は季題発想による二行詩、私の内なる少年Aの物語として発表。

新しい波の出初めは変な句と見られる。俳壇はこれからどうなるか判らないが、芭蕉も新しきは俳諧の花と言っている。これからどんな句が出て来るのか楽しみ。(那川宏一記)

令和七年度総会

総会には県内各地より八十七名が出席参加、午前十一時に開会。冒頭、今年三月末に急逝された顧問木村秋湖さんに対し黙祷を捧げた。小野寿子支部長が挨拶に続き、議事を進行。中谷恭子事務局長より令和六年度事業報告及び収支決算報告がなされ、土田紫翠監事の会計監査報告と併せて拍手で承認された。

次いで令和七年度事業計画と予算案が提起された。事業では、今年度の鍛錬吟行会はつがる市のつがる地球村・藤山邸を宿舎に、話題となっている中泊町宮越家の襖絵拝観が企画されている。また『青森県吟行案内』の編集事業は、県内を六地区に分け、夫々に編集チームを構成し吉田千嘉子氏を委員長として作業を進めることが説明された。人事案件として小野寿子支部長の退任と顧問就任、吉田千嘉子氏の新支部長就任とこれに伴う新しい事務局体制、監査監事、四名の幹事の追加等が発表され議事を終了した。

昼食を済ませて午後一時、俳句大会開会。小泉静子幹事より講師紹介があり、俳人協会評議員・俳誌『都市』主宰の中西夕紀先生が登壇し、記念講演が始まる。演題は「俳句で創作すること」である。

記念講演に引き続き中西夕紀先生より宿題句の講評があり、三光から佳作までお疲れも厭わず丁寧な感想を頂いた。続いて当日句の選考結果が発表され、各選者の天位には選者の染筆色紙が贈られた。次いで、宿題の成績発表と表彰があり、予定通りに令和七年度総会と俳句大会を終え解散した。

吉田新支部長あいさつ

この度、小野寿子様に代わり俳人協会青森県支部支部長を引き受けることとなりました。支部発足から四〇年以上をここまで築いてくださった先輩たちの道を、皆様のお力を借りて遂行してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



あいさつをする
吉田千嘉子新支部長

鍛錬句会の他、これから控える大きな仕事としては来年の「東北大会青森大会」があります。丁度俳人協会65周年の年とも重なることです。是非支部の皆さんで力を合わせ成功させましょう。また、すでに取り掛かっている『青森県吟行案内』ですが、担当された方々の熱意が伝わってきています。良い本が出来上がることでしょう。



俳句大会入賞作品（席題）

中西 夕紀 選

天位 早苗田と湖水の水と照し合ふ 郡川 宏一
地位 虹越ゆる留学目指す子の機影 千葉すみれ
人位 田を植えて津軽平野は一色に 田端 千鼓
秀逸 ブナ若葉熊の傷跡みづみづし 草野 力丸
終バスに滝見の人か水匂ふ 蒲田 吟竜
田水張る雲を映して風映す 坂元 正子
海霧走る海鳥の声黙らせて 畑内 節子
愛用の祖父の野良着も更衣 小出登志子
牡丹散る息ことのへて轆轤蹴る 黒田 長子
眠りても海の声聞く鳥賊漁師 中澤 玲子
夕焼を背に聞く父のハーモニカ 神 せい子
夏霧に風の道あり里の駅 鈴木 操
登山小屋名簿の横に鈴置かれ 瀬川八百子
膳囲む宿煌煌とみどりの夜 清野さくら
全山の蝦夷春蟬や八甲田 岩村多加雄
母の香に母の言霊白牡丹 森下 睦子
豪快な藁の炎の初鯉 今 祐治
鬱屈の旅の地酒や海鞘小鉢 番号 無

草野 力丸 選

天位 鈍色の空を押し上げ花林檎 吉田千嘉子
地位 泡盛をオンザロックでみどりの夜 小笠原聖子
人位 削りたての鉛筆匂ふ立夏かな 中谷 恭子
秀逸 集落に移動図書館風薫る 高野万津江
牡丹散る息ことのへて轆轤蹴る 黒田 長子
虚を飾る赤きシロップかき氷 五十嵐かつ
聖五月よく手の上がる参観日 くらうひろこ
緑なす茶室に異人かしこまる 境 陽子
終バスに滝見の人か水匂ふ 蒲田 吟竜
人生の今はどの辺浮いて来い 小川ひとし
眠りても海の声聞く鳥賊漁師 中澤 玲子
夏霧に風の道あり里の駅 鈴木 操
夏帽の列ほどかるる動物園 対馬 迪女
青嵐いつまで続く米騒動 鈴木ゆき子
ワイパーのリズム二拍子若葉雨 佐藤 幸子
物忘れふえて卵の花腐しかな 和田 宗三
溪流は永久のせせらぎ羊歯若葉 石田かつら
豪快な藁の炎の初鯉 今 祐治

小野 寿子 選

天位 万緑や吾子の命名筆太に 齊藤 君子
地位 夕焼けや明日また使ふ鋤磨く 鈴木志美恵
人位 春満月しばし見上ぐる厨窓 井手上省子
秀逸 風鈴の良く鳴る留守の駐在所 佐藤 霜魚
田水張る雲を映して風映す 坂元 正子
大津軽いつに変わらぬ植田かな 永倉 みつ
津軽路は風まだかき林檎の花 新田 道子
削りたての鉛筆匂ふ立夏かな 中谷 恭子
サンングラス外しいつもの妻となる 西川 無行
不確かな明日に夢馳せ陽炎へる 樋口 京子
終バスに滝見の人か水匂ふ 蒲田 吟竜
まだ熱い爺の骨箱夏の夕 南 美智子
人生の今はどの辺浮いて来い 小川ひとし
花冷えの音楽室の肖像画 小田桐由紀子
ラムネ飲む返事の無きを返事とす 須藤千和子
夏霧に風の道あり里の駅 鈴木 操
田を植えて津軽平野は一色に 田端 千鼓
夕映えの光りあふるる代田かな 木立 邦子

吉田千嘉子 選

天位 高きより朴の風くる麦青忌 島田よう子
地位 夏帽の列ほどかるる動物園 対馬 迪女
人位 尻並び学校田の植進進む 大川 恵子
秀逸 茶店より羽化のごときに白日傘 竹浪 誠也
風鈴の舌の名句の裏返る 鈴木 莉花
花冷えの音楽室の肖像画 小田桐由紀子
紙魚潜む父の蔵書の大言海 野村 英利
聖五月よく手の上がる参観日 くらうひろこ
終バスに滝見の人か水匂ふ 蒲田 吟竜
まだ熱い爺の骨箱夏の夕 南 美智子
新樹光抜けて湖面の蒼に遇ふ 雪田 樹理
眠りても海の声聞く鳥賊漁師 中澤 玲子
寝転べば空は吾のものの聖五月 聖 雪
登山小屋名簿の横に鈴置かれ 瀬川八百子
散る桜まとひて入る美術館 佃 正子
全山の蝦夷春蟬や八甲田 岩村多加雄
山と田に寄り添ふ生計風薫る 三上 裕子
カラフルな影持ち歩く日傘かな 小泉 静子

別れ霜鋏の楔をすげかふる

宿題句第一位は鈴木志美恵さん(五戸町)

宿題句には340句の応募があった。

講師の中西夕紀先生を始め、県支部役員25名の選者によって選が行われた。二位以下の結果は以下の通り。②小出登志子(青森市)③須藤千和子(平内町)④齊藤君子(青森市)⑤小林五月(十和田市)⑥小笠原聖子(八戸市)⑦橘すなお(青森市)⑧佐々木寿子(十和田市)⑨赤坂

良美(八戸市)⑩中村しおん(十和田市)⑪佐々木雅翔(八戸市)⑫佐藤霜魚(八戸市)⑬蒲田幸子(深浦町)⑭西川無行(八戸市)⑮馬場裕子(弘前市)⑯星野あかね(青森市)⑰松田由美子(青森市)⑱吉田千嘉子(八戸市)⑲小川ひとし(青森市)⑳相馬敏光(十和田市)

俳句大会入賞作品 (宿題)

出囃子も武者も漁師や春芝居
子を育て子に育てられ鳥ぐもり
湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ
土の香も陽の香も纏ひ春耕す
さへづりの村から村へ郵便夫
百穀を潤す雨や種選ぶ
休みなく回る地球を耕しぬ
宣誓の拳手の少年風光る
馬の眸の沖を離さず菜種梅雨
花冷えや椅子きしませて聞く講義
緋けば師系に子規や花りんご
万物の目覚め促す路の臺
一片の雲なき朝や鳥帰る
杵売りのこぼるるしらす朝の市
遠雪崩静かな声の母が居る
臨月の命育てし大朝寝
春愁や鳩の出て来ぬ鳩時計
花筏乱さぬやうに鋏洗ふ
涅槃西風近くて遠き嫁姑

小出登志子 須藤千和子 齊藤君子 小林五月 小笠原聖子 橘すなお 佐々木寿子 赤坂良美 中村しおん 佐々木雅翔 佐藤霜魚 蒲田幸子 西川無行 馬場裕子 星野あかね 松田由美子 吉田千嘉子 小川ひとし 相馬敏光

中西夕紀選

天位 湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ
地位 花種を蒔くや己が身盾にして
人位 遠雪崩静かな声の母が居る
秀逸 輝いて白鳥帰る青き空
永き日や砂の零るるユニホーム
蜩蟬く阿吽の呼吸夫婦舟
花冷えや椅子きしませて聞く講義
いま塗りし畦の匂に吹かれけり
佳作 一片の雲なき朝や鳥帰る
産み月の敷き藁替へて暖かや
麗かや群舞のかもめ発光す
春ショール乏しき姉の遺品より
初出社黙て見送る父のゐて
割り込みて小さく座る花冠
海鳥の蹤いてくるなり花見船
一灯で足りる暮しや夜半の春
白バイの隊列眩し春の風
のどけしや食後の菓飲み忘れ

齊藤君子 小川澄子 星野あかね 坂元正子 佐藤いく子 永倉みつ 佐々木雅翔 鈴木志美恵 西川無行 相馬敏光 山本こう子 小川澄子 野村英利 小野寺和子 今順子 太田直樹 上重佳子 田端千鼓

草野力丸選

天位 万物の目覚め促す路の臺
地位 花筏乱さぬやうに鋏洗ふ
人位 宣誓の拳手の少年風光る
秀逸 牛小屋の間口三尺春日さす
やはらかな力秘めたる芽吹きかな
手の甲にちよこと青饅笑ふ母
のどけしや手綱に戯るる牛の舌
朝寝して身の擁ゆるむ湯宿かな
佳作 改札を出て桜の匂ふ町
緋けば師系に子規や花りんご
春潮に沿ひて潜りて五能線
花衣脱ぎて残りし身のほてり
犬ふぐり一番咲きを主張せり
先逝くも残るのいや花衣
長閑さや眠りをさそふ波の音
土の香も陽の香も纏ひ春耕す
ひらかなとカタカナも吹く春の風
混沌の世や春愁を募らせて

蒲田幸子 小川ひとし 赤坂良美 小川ひとし 聖隆也 鈴木行雄 葛西幸子 佐藤幸子 蒲田幸子 佐藤霜魚 中澤玲子 小野寺和子 瀬川文香 外川幸子 石田五月 工藤祐子

小野寿子選

天位 いま塗りし畦の匂に吹かれけり

鈴木志美恵

吉田千嘉子選

天位 朝市や婆の草餅売れにけり
地位 嘯や逆さ岩木の映る沼
秀逸 世の隅に生きて八十路や梅一輪
キョーピーの手足おつくりのどけしや
笹舟の客はお日さま春の川
春ショール乏しき姉の遺品より
艦船のおぼろに浮かぶ砂嘴の浦
佳作 ほがらかに歌ふ少女や春の風
涅槃西風近くて遠き嫁姑
路のたう母から届く一筆箋
花筏乱さぬやうに鋏洗ふ
薄氷の溶けて農夫の初仕事
未完の句ばかりの句帳鳥帰る
空馬屋を音なく満たす春の海霧
背の嬰をとんとんと春の風
さへづりの村から村へ郵便夫
さやうなら秋潮先生春の星

清野さくら 相馬ふさ子 原子立子 南美智子 駒津董子 小川澄子 井手上省子 西川無行 相馬敏光 工藤邦子 小川ひとし 石澤正 齊藤君子 佐々木ツタ子 秋谷美智子 小笠原聖子 太田直樹

岩村多加雄選

天位 洗濯物斜めに乾く春一番
地位 若草や匂ひを踏みて子ら育つ
人位 初蝶のそろそろ止まりさうに飛ぶ
秀逸 母の歩を幾度も待ち啄木忌
馬の眸の沖を離さず菜種梅雨
さへづりの村から村へ郵便夫
亀鳴くや日に三千歩三十年
臨月の命育てし大朝寝
佳作 改札を出て桜の匂ふ町
雛鳩の声を映して春障子
花筏乱さぬやうに鋏洗ふ
湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ
春の雷身構へをればそれつきり
初出社黙て見送る父のゐて
割り込みて小さく座る花冠
葎野に腰据えて食ふ握り飯
水仙の素直に並ぶ保育園
花筏動くともなく動きをり

佐藤霜魚 駒津董子 敦賀恵子 大川恵子 中村しおん 小笠原聖子 佃正子 松田由美子 蒲田幸子 竹浪誠也 小川ひとし 齊藤君子 神せい子 野村英利 小野寺和子 郡川宏一 宮内香宝 太田直樹

岩村多加雄選

天位 遠雪崩静かな声の母が居る
地位 白塗りの役者は蟹や村長閑
人位 嫁菜摘むるさと訛大らかに

星野あかね 金田一子 小泉静子

秀逸 春の星仰ぎ師の句を誦する
のどけしや手綱に載る牛の舌
鬼の赤枝正の赤四月かな
柊売りのこぼるるしらす朝の市
別れ霜の楔をすげかふる
佳作
鳴りにいたこのやうな口調あり
急げ癖断たねばならぬ春炬燵
湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ
子に育てて子に育てられ鳥ぐもり
割り込みて小さく座る花冠
からつばの電話ボックスの夜
風強き潮風トイル辛夷咲く
心経の無の字数へて春愁
地図に無き善知鳥の村よ路のたう

鈴木 行雄
葛西 梗子
松宮 裕子
馬場 志美恵
鈴木 志美恵
工藤 義人
黒田 長子
齊藤 君子
須藤 千和子
小笠原 千代
和木 宗三
佐々木 雅翔
工藤 祐子
中谷 恭子

永倉 みつ 選

天位 さやうなら秋湖先生春の星
地位 子に育てて子に育てられ鳥ぐもり
秀逸 山の神田に降り立ちて穀雨かな
キョービーの手足ぶつくりのどけしや
山火事の恐さままだま春の闇
春愁のひとつふたつはあるほどに
縫ひ上げたつづりの娘の雛祭
出離子も武者も漁師や春芝居
佳作
皺の手で吾子に供へし彼岸餅
産み月ばや雑草それぞれ佳き名持ち
宣誓の拳手の少年風光る
子が論す「右」の筆順春うらら
うららかや秘境の村に芝居立つ
標高を訂正されし山笑ふ
土の香も陽の香も纏ひ春耕す
きようよりは杖も家族や草青む

太田 直樹
須藤 千和子
馬場 裕子
南 美智子
古里 津勢
清水 山査子
星野 あかね
小出 登志子
樋口 京子
樋口 京子
相馬 敏光
赤坂 良美
榊 せい子
金田 一一子
戸川 美重子
今川 順子
小林 五月
竹浪 幸子

奥田 卓司 選

天位 春シヨール乏しき姉の遺品より
地位 鳴りを包む大樹の晴れがまし
秀逸 戻る娘に一包みして草の餅
子に育てて子に育てられ鳥ぐもり
初出社黙て見送る父のゐて
しやばん玉空へ我へと吹くをさな

小川 澄子
上重 佳子
松田 由美子
須藤 千和子
野村 英利
永倉 みつ

小野寺和子 選

天位 子に育てて子に育てられ鳥ぐもり
地位 初出社黙て見送る父のゐて
秀逸 一片の雲なき朝や鳥帰る
夕空に道あるがごとく鳥帰る
緋け師系に子規や花りんご
洗濯物斜めに乾く春一番
宣誓の拳手の少年風光る
蜩蟻阿阿の呼吸夫婦舟
佳作
世の隅に生きて八十路や梅一輪
木の芽春つむじ二つの児が駆ける
曆剥ぎ春のむじを溢れさす
雛納む華甲の嫁とその姑と
母の歩を幾度も待ち啄木忌
さへつりの村から村へ郵便夫
水仙の素直に並ぶ保育園
街道や色うぶうぶと芽落葉松
別れ霜の楔をすげかふる
逆縁を知らず百六春の雷

須藤 千和子
野村 英利
西川 無行
西川 無行
佐藤 霜魚
赤坂 良美
永倉 みつ
原 立子
小杉 玲子
中澤 津勢
古里 恵子
大川 恵子
小笠原 聖子
宮内 香宝
畑内 節子
鈴木 志美恵
竹浪 幸子

金田 一一子 選

天位 介護五の妻にやさしい木の芽風
地位 出離子も武者も漁師や春芝居
秀逸 一片の雲なき朝や鳥帰る
涅槃西風近くて遠き嫁姑
万物の目覚め促す路の臺
残る雪以外と堅き執着心
春の空石の地蔵と語り合ふ
雪解川津軽平野をゆさぶりて
洗濯物斜めに乾く春一番
佳作

佐々木 雅翔
小野 寿子
原 立子
吉田 千嘉子
赤坂 良美
齊藤 君子
榊 せい子
五十嵐 かつ
対馬 迪子
敦賀 恵子
須藤 育子
中谷 恭子

小泉 静子 選

天位 牛小屋の間口三尺春日さす
地位 説法のまた振出しに亀鳴けり
秀逸 改札を出てで桜の匂ふ町
百穀を潤す雨や種選ぶ
馬の眸の沖を離さず菜種梅雨
人の目に疲れて桜散り始め
新キヤベツさつくり切られ水を吐く
佳作
一片の雲なき朝や鳥帰る
最北の県旗あきき街うらら
産み月の敷き葉替へて暖かや
雉鳩の声を映して春障子
初出社黙て見送る父のゐて
連露汽笛忘れぬ連絡船
遠翹の文字に羽あられ飛び立ちさう
鳴りを包む大樹の晴れがまし
花盛る土手に手を振る屋形船
街道や色うぶうぶと芽落葉松

黒田 長子
須藤 千和子
越後 則子
小林 五月
新田 道子
佐々木 雅翔
高井 ユカ
工藤 祐子
中谷 恭子

郡川 宏一 選

天位 式典を待つパイプ椅子春の芝
地位 湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ
秀逸 春キヤベツ姉妹といふはよく笑ふ
鳴りにいたこのやうな口調あり
緋け師系に子規や花りんご
図書室を吹き抜けて行く若葉風
うららかや自転車で行く特売日
標高を訂正されし山笑ふ
土の香も陽の香も纏ひ春耕す
きようよりは杖も家族や草青む

対馬 迪子
齊藤 君子
島田 よう子
工藤 義人
佐藤 霜魚
長濱 美佐緒
戸川 美重子
佐藤 幸子
工藤 邦子
小田 紀子
榊 せい子
対馬 迪子

今 順子 選

天位 飛花落花菅江真澄の板碑へと
地位 別れ霜の楔をすげかふる
秀逸 その奥もその奥も散る桜かな
春の雷身構へをればそれつきり
馬の眸の沖を離さず菜種梅雨
臨月の命育てし大朝寝
かざぐるま風を採て子に走る
花筏動くともなく動きをり
佳作
産み月の敷き葉替へて暖かや
岳裾まで野火走り出す津軽
りハビリのための転院つばくらめ
子に育てて子に育てられ鳥ぐもり
産みの客はお日さま春の川
雛納む華甲の嫁とその姑と
花種を蒔くや己が身盾にして
柊売りのこぼるるしらす朝の市
嫁菜摘むふると訛大らかに
薄味に馴れておだやかなる春思

中澤 草子
中澤 草子
佐藤 幸子
小笠原 千代
諏訪 正子
鈴木 志美恵
齊藤 君子
榊 せい子
中村 しのぶ
松田 由美子
太田 直樹

佐々木雅翔 選

天位 杉玉の淡きさみどり燕来る
地位 百穀を潤す雨や種選ぶ
秀逸 出離子も武者も漁師や春芝居
未完の句ばかりの句帳鳥帰る
雲梯はペンキ塗立て風光る
花衣脱ぎて残りし身ははてり
ゆるがしくの村から上村へ郵便夫
さへつりの村から上村へ郵便夫
産み月の敷き葉替へて暖かや
岳裾まで野火走り出す津軽
朝霞やひいふうみいよ残る鴨
田を打つて堰に水音戻りけり
地震やまぬ国に生れた桜冷え
海鳥の蹤いてくるなり花見船
自己流の崩し字の文春愁
柊売りのこぼるるしらす朝の市
花筏動くともなく動きをり

秋谷 美智子
橘 すなお
小出 登志子
齊藤 君子
対馬 迪子
小野 和子
瀬川 八百子
小笠原 聖子
相馬 敏光
佐藤 霜魚
小杉 郁子
葛西 梗子
今川 順子
越後 則子
馬場 裕子
太田 直樹

別れ霜の楔をすげかふる

鈴木志美恵 選

天位
笠舟の客はお日さま春の川

駒津 董子

地位
初蝶のそろそろ止まりさうに飛ぶ

敦賀 恵子

秀逸
湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ

齊藤 君子

佳作
世の隅に生きて八十路や梅一輪

原 立子

亡き友へ伝言したき揚雲雀

浦田 吟竜

昭船のおぼろに浮かぶ砂嘴の浦

清水 雪江

佳作
囀りにいたこのやうな口調あり

須郷 権太

万物の目覚め促す路の臺

工藤 義人

牛小屋の隅に三春日さす

浦田 幸子

永どかりや砂の零るるユニホーム

小川 ひとし

休みなく回る地球を耕しぬ

佐藤 いく子

人の目に疲れて桜散り始む

五十嵐 かつ

さへづりの村から村へ郵便夫

佐々木 寿子

かざぐるま風を採し子の走る

小笠原 聖子

家庭の花は満開野球の子

佐藤 幸子

岩村 多加雄

高橋 千恵 選

天位
春の星仰ぎ師の句を誦する

鈴木 操

地位
たんぽぽや雑草それぞれ佳き名持ち

樋口 京子

人位
子を育ててに育てられ鳥ももり

須藤 千和子

秀逸
万物の目覚め促す路の臺

浦田 幸子

牛小屋の隅に三春日さす

小川 ひとし

初蝶や手伸ばす母の車椅子

中澤 玲子

その奥もその奥も散る桜かな

齊藤 君子

忘れまじ師の最後なる春句会

鈴木 操

佳作
最北の県旗あかるき街うらら

原 立子

花筏乱さぬやうに鉄洗ふ

小川 ひとし

蒼穹や深も色付く木の芽時

雪田 樹理

ふらこに温みを置き去り去りぬ

鈴木 隆也

メタセコイア空突き上げて風光る

小野寺 和子

鬼の赤校正の赤四月かな

諏訪 正子

水仙の素直に並ぶ保育園

松宮 梗子

水仙の素直に並ぶ保育園

宮内 香宝

馬場の裕子

田端 千鼓

のどけしや食後の葉飲み忘れ

千鼓

対馬 迪女 選

天位
背の髪をとんとんと春の風

秋谷 美智子

地位
田を打つて堰に水音戻りけり

葛西 行雄

秀逸
標高を訂正されし山笑ふ

今 順子

湯船まで野火の匂ひの付き纏ふ

工藤 邦子

うららかにや秘境の村に芝居立つ

齊藤 君子

花冷えや椅子をきしませて聞かず講義

金田 五月

佳作
緋は師系に子規や花りんご

佐藤 霜魚

こころよき二輪の加速花菜風

五十嵐 かつ

刈り込みて小さく座る花筵

小野寺 和子

伐採の印の樹木蝶生る

星野 宏一

地震やまぬ国に生れて桜散り始む

郡川 宏一

先逝くも残るの月や花衣

くどう ひろこ

草餅の届く昭和の縁先に

工藤 祐子

吉田 敏夫 選

天位
干鏝の一連を下げ二人かな

古里 津勢

地位
休みなく回る地球を耕しぬ

佐々木 寿子

秀逸
地図に無き善知鳥の村よ路のたう

中谷 恭子

洗濯物斜めに乾く春一番

佐藤 霜魚

春愁や鳩の出で来ぬ鳩時計

吉田 郁子

さへづりの村から村へ郵便夫

小笠原 聖子

犬ふぐり一番咲きを主張せり

瀬川 文香

佳作
改札を出て桜の匂ふ町

浦田 吟竜

花筏乱さぬやうに鉄洗ふ

小川 ひとし

餌の残りに育ててもらひをり

黒田 長子

春の雷身構へればそれつきり

相馬 育子

散策の歩み大きく下萌ゆる

須藤 幸子

木や逆さ岩木の映る沼

相馬 幸子

かざぐるま風を採し子の走る

宮内 香宝

水仙の素直に並ぶ保育園

佐藤 香宝

工藤 邦子 選

天位
出囃子も武者も漁師や春芝居

小出 登志子

地位
出囃子も武者も漁師や春芝居

小出 登志子

緋は師系に子規や花りんご

佐藤 霜魚

たんぽぽや雑草それぞれ佳き名持ち

人位
介護五の妻にやさしい木の芽風

樋口 京子

秀逸
樹木匠のまなざし熱き桜古樹

草野 力丸

馬の眸の沖を離さず菜種梅雨

山本 こう女

杉玉の淡きさみどり燕来る

中村 しょう女

別れ霜の楔をすげかふる

秋谷 美智子

きようよりは杖も家族や草青む

鈴木 志美恵

佳作
リハビリのための転院つづくらめ

竹浪 幸子

宣誓の挙手の少年風光る

小田 桐由紀子

手にとればいつも散る桜かな

赤坂 良美

さへづりの村から村へ郵便夫

秋谷 美智子

再訪し生きたのびたの苗木買ふ

小笠原 聖子

選ばれて標本のさくらかな

くどう 正子

拵売りのこぼるるしらす朝の市

馬場 裕子

土の香も陽の香も纏ひ春耕す

小林 五月

白バイの隊列眩し春の風

上重 佳子

柳 せい子 選

天位
百穀を潤す雨や種選ぶ

橘 すなお

地位
夕空に道あるがごとく鳥帰る

西川 無行

人位
母ひとり風となるまで耕せり

小笠原 聖子

秀逸
春シヨール芝の遺品より

小川 澄子

休みなく回る地球を耕しぬ

佐々木 寿子

うららかにや秘境の村に芝居立つ

戸川 美重子

先逝くも残るの月や花衣

くどう ひろこ

ひらかなとカタカナも吹く春の風

石田 かつら

佳作
囀りにいたこのやうな口調あり

工藤 義人

たんぽぽや雑草それぞれ佳き名持ち

樋口 京子

涅槃西風近くて遠き嫁姑

相馬 敏光

緋は師系に子規や花りんご

佐藤 霜魚

被災地の仮設住宅下萌ゆる

小川 ひとし

春愁や鳩の出で来ぬ鳩時計

吉田 千嘉子

やどかりや吾も浮世に宿借る身

五十嵐 かつ

白塗りの役者は蟹や村長閑

金田 一子

手にとればいつも散る桜かな

秋谷 美智子

地震やまぬ国に生れて桜冷え

くどう ひろこ

築館 秋水 選

天位
馬の眸の沖を離さず菜種梅雨

中村 しおん

地位
風光る大きな牛の尻ねまり

吉田 千嘉子

人位
出囃子も武者も漁師や春芝居

小出 登志子

秀逸
緋は師系に子規や花りんご

佐藤 霜魚

岳へて野火走り出す津津軽

春愁や鳩の出で来ぬ鳩時計

佐藤 霜魚

オーブンにのけきふくらむ春うらら

吉田 千嘉子

湯上りの香とすれちがふ花の宵

境 陽子

佳作
リハビリのための転院つづくらめ

高井 ユカ

笠舟の客はお日さま春の川

小田 桐由紀子

白塗りの役者は蟹や村長閑

駒津 董子

舌足らずなれど嬉しき初音かな

金田 一子

さへづりの村から村へ郵便夫

鈴木 志美恵

戻る娘に一包みして草の餅

松田 由美子

干鏝北前船をまなうらに

外川 幸子

拵売りのこぼるるしらす朝の市

馬場 裕子

花筏動くともなく動きをり

太田 直樹

からつばの電話ボックスの夜

小笠原 八千代

敦賀 恵子 選

天位
休みなく回る地球を耕しぬ

佐々木 寿子

地位
連翹の文字に羽あり飛び立ちさう

佐藤 幸子

秀逸
可憐夜の心に沁みる朧月

坂元 正子

世の隅に生きて八十路や梅一輪

原 立子

万物の目覚め促す路の臺

浦田 幸子

まはるとき一色となる風車

鈴木 操

手に握り風より軽き花の屑

小笠原 聖子

拵売りのこぼるるしらす朝の市

馬場 裕子

佳作
麗かや群舞のかめめ発光す

山本 こう女

百穀を潤す雨や種選ぶ

橘 すなお

夜半の春一燈あれば足るくらし

黒田 順子

苗売りと話せば美しきやとし

比内 恵子

母の歩を幾度も待ち啄木忌

大川 幸子

優しきは老いたる証母子草

永倉 みつ

長閑さや眠りをさそふ波の音

外川 幸子

春愁や片づきすぎし家の中

鈴木 志美恵

別れ霜の楔をすげかふる

鈴木 志美恵

綱り返す別れと出会う春の川

中谷 恭子

五十嵐 かつ 選

天位
宣誓の挙手の少年風光る

赤坂 良美

地位
百穀を潤す雨や種選ぶ

橘 すなお

花の下ポーズを決めてランドセル

境 陽子

秀逸
涅槃西風近くて遠き嫁姑

相馬 敏光

花衣脱ぎて残りし身のほてり

小野寺 和子

土の香も陽の香も纏ひ春耕す

鈴木 志美恵

別れ霜の楔をすげかふる

中谷 恭子

